

ビジュアル系
子ども・家族の
理解と支援

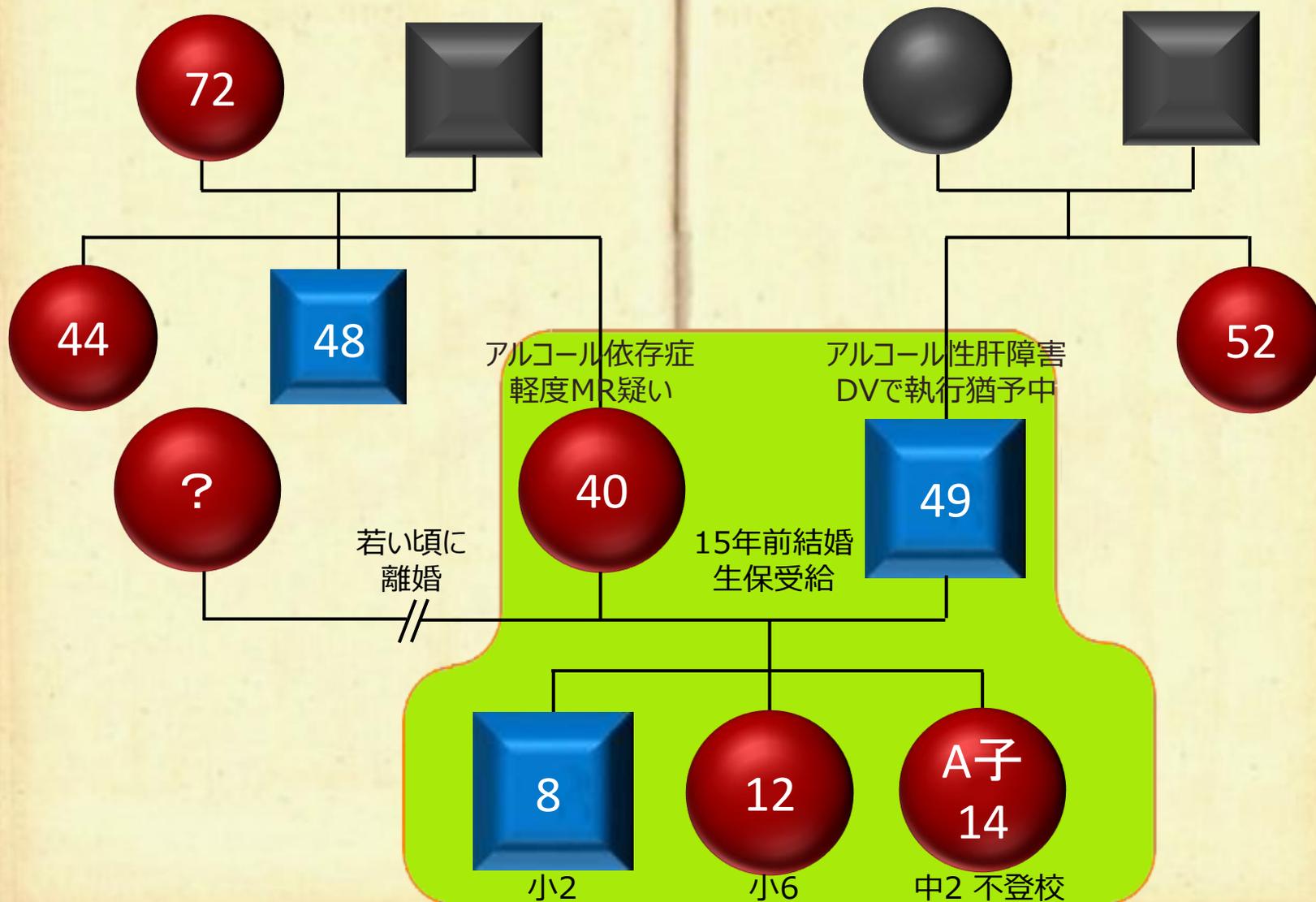
十五 仮想事例検討会 ③

くひとりでリフレクティングく

※ 間隔があいているので、事例を再掲します。



お断り: 事例検討のために作成された家族です。



両親について

母親は、三人兄弟の末っ子。幼少時に父親が死去し、その後、生保受給。高校を中退し、様々なアルバイトした。25歳の頃、友人の紹介で働いていた飲み屋で現在の夫と知り合う。三人目が生まれ、手が回らなくなるにつれて酒量が増えた。最近は昼ごろに起きることも多く、家事も滞りがち。軽度の知的障害が疑われている。母方兄、姉はそれぞれ結婚しており、ほとんど行き来はない。

父親は、若い頃に離婚歴のある建具師。結婚後、妻と飲酒することが習慣化し、アルコール性肝障害になる。現在は断酒している。半年前、酔った妻への暴言・暴力と止める子どもたちを突きとばしたことで逮捕・起訴され執行猶予中。

母親はよく離婚を口にしているが、一人で子どもを育てる自信がなく具体的に動くことはない。父親も、自分がいなければ子どもたちが困るからと離婚は考えていない。

子どもたちについて

長女は、中学2年。小学校時代は、担任から食事・洗濯・宿題等のサポートを受けて登校していた。成績も悪くはなかった。中学に入ると学校の配慮はなく、いじめもあって休む日が増えていった。現在は週1〜2回、昼ごろにふれあい教室をのぞく。家事や妹たちの世話が行き届かない母親を嫌う。父親が家事をするときは、すすんで手伝っている。

小6次女・小2長男（いずれも怠学傾向）は、身なり・宿題・登校など、父親に強く言われるとしぶしぶ従う。両親が口論すると必ず母親をかばう。2人とも通常学級で低学力、学校は様々な配慮をしている。

今回の経緯

母親の飲酒を父親が叱っているとき、長女が「いい加減にしてよ！」と言い、それに父親が「学校を休むやつが偉そうに言うな」と怒鳴った。父親の態度に驚いた長女は、発作的にリストカットをして家を出た。しばらくして近くの交番に行き、家に帰りたくない、生きていても仕方がないと訴えて児相で保護された。

母親は、児相に呼び出されて事情を聞かれ、たうえに長女からは帰宅を拒まれ、飲酒に歯止めがきかなくなつた。激高した父親が手を上げそうになり、心配した次女が児相に電話。結局、子ども全員の一時保護となる。

話し合いの結果、母は断酒のために通院する、父親は暴言を控えると約束。次女・長男は家庭引き取りとなつた。長女は迷つたあげく父親の提案を受け入れ、保護所で今後のことを考えることになつた。

A子さんには、日々のゴタゴタそれ自体のしんどさと、それに結びつけた自責の辛さがあると思います。その肩の荷を軽くできそうなのは、どちらかというとも後者でしょう。

そこで提案ですが、その自責ストーリーの文脈変化をめざして、ケース担当者役と心理相談員役とわたしとでリフレクティングチームってのをやりましょう。協力していただけの方、前に出てもらえますか？



それから、各グループのA子さん役をされた方々は、話に加わらずに椅子に座ってライブでわれわれチームの振り返りを聴いていてください。で、後ほど感想をお聞きします。

一時保護以降、A子さんからはいろんな話をうかがったわけですが、ここでちょっと私たちスタッフで意見を出し合いたいと思います。ここでそれを聴いてもらって、後で感想とか意見をきかせてください。

ではまず、家族関係というか、つながりについてどんな印象を持ってる？

最初はバラバラの家族かなと思ったけど、実はそうじゃなかった。たとえば母親は次女・長男から慕われているし、夫だって離婚なんてぜんぜん念頭にない。



父親は、A子さんの家事分担で支えられてきたし、それに応えて飲酒を控えていたしね。

A子さんについていえば、今後のことを保護所で考えようと決心をしたのはお父さんの助言があったからだろう？今回、父親が厳しい言葉を発したわけだけど、初めてのことだったからショックを受けたわけだ。これまで父親は無理な登校圧力をかけておらず、二人は自然に信頼しあっていたと思う。

次女・長男が比較的安定しているのは、母親とのつながりがあったからでしょう。もちろん、学校の手厚いサポートもありますが。



こうしてみると、家族はそれぞれにいろんな組み合わせで支えあってる。それに、親戚とかの外圧や近隣等との軋轢がほとんどないのも、この家族の強みだと思う。

確かにね。じゃあ、次に、今回のことについて振り返ってみよう。

なによりも、一時保護所でこうやって考える機会を持てたのはよかったです。

そのきっかけを作ったのは、間違いなくA子さん自身だけど、他人に家族のことを話すのは、とてつもない勇気が必要だったでしょうね。



その背中を押したのは父親だよ、結果としてだけど。

よくわからないけど、父親がカッとなったのは、学校とは関係なくて、ほかに理由があったんじゃないだろうか。

他のことって？

家事も養育も自分がやっていると父親の自負、アルコールを断って頑張っているという意地ね。そこに、よかれと思って、あるいは見かねて、A子さんが手伝い過ぎた。それでカチンと、ないかな？

そのことだけど、父親は今まで一度も学校のことなんて言わなかったわけでしょ。あれはどうしたんだろう？



いや、なんかわかる気がする！

「家には自分にしかできないことがある、それは学校に行くよりずっと大事なこと」というA子さんの判断は間違っていないと思う。無意識的なものかもしれないけど。

A子さんの学校のことについてはどう？

その英断はどこから生まれたんだろうか？

よくわからないけど、父親がアルコールを我慢して家事をしている姿をずっと見てきた、それは無関係じゃないと思うけど。



自分だったら、逆に学校生活に逃げたと思う。家のしんどさからから逃れて、部活に熱中したり。

それはよくわかります。でも、自分を必要としているのは学校じゃなく家だ、という思いの方がずっと強かったんでしょうね。

そうそう、ということは現在の登校の仕方はベストだよな。



結局、A子さんと父親って、私たちが思う以上に強い絆があるんじゃないかなあ。暴言のショックが大きかったのは、そのせいだったんだ、きっと。

家族って、そういうふう
に相互に影響しあっている
んだなあ。お母さんの通院
は、そうしたつながりの一
つだってことか。

ってことは、A子さんは今
のままでいい、いや、いまの
ママがいい、必要とされてい
る家に居ることが。

振り返ってみれば、A子さん
が家で踏ん張って、父親がお酒
を我慢して、そして母親が通院
する決心をしたってことよね。



でもさあ、それはそれでしん
どくない？登校が息抜きになっ
たら最高だと思わない？学校が
そういう場であつたら。

息抜き登校か、それすごく大事なポイントだと思う。

学校の支援目標が具体化して来たね。学校が息抜きの場になる過ごし方ってどういうのだろう。そこを学校と話し合ってみたい気がする。



われわれの課題も見えてきたけど、予定の時間がきたので終わります。A子さん、横で聴いていて、どんな感想をもたれましたか？